



福島県の獣医師

(福島県動物愛護センター・福島県中央家畜保健衛生所)



採用情報
各種申し込み
問い合わせは
こちらから

①犬猫の保護・収容、収容された動物の一定期間飼育管理、譲渡 ②家畜の伝染病予防、衛生指導業務、病性鑑定



3犬を飼うために必要なルールやマナー、しつけの方法等について、講習会を行っている 4犬舎や猫舎は全て個室で、他の個体からのストレスや感染症の防止対策を図っている 5犬とのふれあいを通じて、命の大切さや相手を思いやる気持ちを育むことを目的に、小学校への獣医師派遣事業を行っている 6譲渡する猫にマイクロチップを装着し、迷子になった場合でも飼い主がわかるようにしている

永富さんの1日

「福島県動物愛護センター」獣医技師のお仕事を紹介

完全週休2日制であることに加え、年休、夏休み、子育て休暇等、福利厚生が充実しているので仕事とプライベートの充実は可能。永富さんも育児休暇を取得し、家族と貴重な時間を過ごすことができた。

- 8:30 登庁
- ▼ 8:40 犬の健康状態の確認
- ▼ 9:40 不妊去勢手術
- ▼ 12:00 昼食
- ▼ 13:00 犬の譲渡準備、馴致訓練、ホームページに載せる写真・動画の撮影など
- ▼ 15:00 動画の編集
- ▼ 16:00 事務作業
- ▼ 17:15 退庁



永富豪人さん
Profile
入庁／2019年4月
所属／福島県動物愛護センター

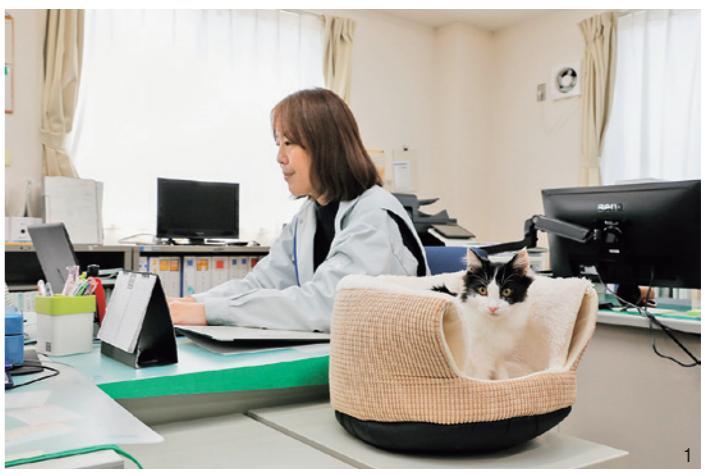
公務員獣医師が県内で活躍
愛護センターが命をつなぐ
現在、獣医師として働く福島県職員は93人。動物愛護、家畜保健衛生、公衆衛生など幅広い分野で業務を担当。その仕事は多岐にわたり、私たちの日常生活や食に直結している。
三春町の「福島県動物愛護センター」では収容された犬猫の譲渡に向けた健康管理、馴致訓練、犬や猫に関する住民からの苦情対応など、幅広い業務を担っている。入庁6年目の獣医師、永富豪人は「使命感を持つて仕事を取り組む。「犬猫を扱う獣医師ですが、同時に地域住民の生活環境を守る公務員です。犬猫のことに目が行き過ぎて困りごとがある住民を置き去りしないよう、住民の声をしっかりと聴くように心がけています」と話す。福島県の課題でもある猫の引取り数及び殺処分数の削減にも注力し、安易な餌やりを行わないよう啓発活動を行い、住民主体の地域猫活動の支援事業を推進。収容された猫には不妊去勢手術を実施している。

公務員獣医師が県内で活躍
愛護センターが命をつなぐ
現在、獣医師として働く福島県職員は93人。動物愛護、家畜保健衛生、公衆衛生など幅広い分野で業務を担当。その仕事は多岐にわたり、私たちの日常生活や食に直結している。
三春町の「福島県動物愛護センター」では収容された犬猫の譲渡に向けた健康管理、馴致訓練、犬や猫に関する住民からの苦情対応など、幅広い業務を担っている。入庁6年目の獣医師、永富豪人は「使命感を持つて仕事を取り組む。「犬猫を扱う獣医師ですが、同時に地域住民の生活環境を守る公務員です。犬猫のことに目が行き過ぎて困りごとがある住民を置き去りしないよう、住民の声をしっかりと聴くように心がけています」と話す。福島県の課題でもある猫の引取り数及び殺処分数の削減にも注力し、安易な餌やりを行わないよう啓発活動を行い、住民主体の地域猫活動の支援事業を推進。収容された猫には不

福島県の安全な暮らしと食のために
動物の保護、家畜の防疫に取り組む



福島県動物愛護センター(ハピまるふくしま)のドッグランで保護犬と触れ合いながらしつけ訓練をする永富さん



1譲渡に向けて保護猫を人に慣らすために、事務所の中で一緒に過ごす場合もある。職員の皆さんもかわいらしさに癒やされている 2愛情を込めて犬猫を見守っている「福島県動物愛護センター」の皆さん。現在9名の獣医師が所属している

保護された犬猫の変化や譲渡した喜びもやりがいに

福島県の獣医師(福島県動物愛護センター・福島県中央家畜保健衛生所)



伝染病予防のために牛の検査をする

11

北海道出身で入庁11年目の獣医師、神川綾香さんは、学生時代に動物の病気や病原体に興味を持ち、獣医師を目指したといふ。「実際の現場で働き、家畜の病気を減らしたいと思いまして。治せる家畜には限りがありますが、行政ならば地域全体の家畜の病気を減らすこと、より貢献できると思い、公務員獣医師を目指しました」と振り返る。住み慣れた北海道と違う環境で働いてみたいと思ったことと、母方の祖父が福島県新地町出身だったこともあり、所縁のある福島県を選んだ。

獣医師の資格を十分に生かせます」と教えてくれた。

動物愛護センターでは人に慣れていない犬猫もたくさん収容されている。「日々の管理をしていく中で少しづつ気を許してくれる様子を見るうれしいです。また、そうして長く管理していた犬猫たちが新しい飼い主さんにもらわれて行くときは一層の喜びがあります」と笑顔があふれる永富さん。譲渡のため

手術にも一定の憧れを持つて獣医師になりました。手術時の緊張感はありますが、犬猫を扱うことに負担を感じてはいません。公務員獣医師でありますから相当数の手術を経験できるため、獣医師の資格を十分に生かせます」と教えてくれた。



平成30年2月に新しく中央家畜保健衛生所を開所。最新鋭の機器を使用して診断を行うことができる

12

自分らしく働く職場環境

農家に寄り添い地域に貢献

神川さんの1日

「福島県中央家畜保健衛生所」獣医技師のお仕事を紹介

防疫課 主任獣医技師の神川さんは現在、子育て中(3歳児の母)のため、「育児短時間」で勤務。女性が安心して働く環境で、仕事と育児を両立させている。

- 9:00 登庁
- 10:00 牛・豚・鶏などを検査するため車で畜産農家へ移動
- 10:30 農家到着
打合せ後、家畜から採血
- 12:00 昼食
- 13:30 帰庁
検査室で血液検査や寄生虫検査
- 16:00 事務作業
- 17:15 退庁



神川綾香さん

Profile
入庁／2015年4月
所属／福島県中央家畜保健衛生所 防疫課

などの原因を特定するために専門的な検査を行っている神川さん。検査の結果を基に畜産農家の予防的な検査、家畜の伝染病の病気を減らすために、病気を防ぐ衛生対策などはなるべく負担がかからず継続可能であ

るよう提案しています。畜産農家と協力して取り組む中で、「病気が少なくなった」や「肉の評価が上がった」と喜ばれることは達成感につながる。

神川さんは産休・育休を経て、現在は育児短時間で勤務。「福利厚生も充実しており、たくさんの女性職員が活躍している福島県での暮らしを楽しみ、休日はお子さんを連れて公園やスキー場に出かけることが多いそう。ワーカーライフバランスの良さも公務員獣医師の魅力だ。



13

病気の診断や対策を職員同士で検討しあうことも多く、組織内での信頼関係が築かれています。

玉川村にある「福島県中央家畜保健衛生所」では、獣医師た

ちが、牛・豚・鶏・ミツバチなどを含めた「食べ物を生産する家畜」の健康管理を行う。業務としては、家畜の病気の検査・研究・畜産農家への指導のほか、豚熱の発生を防ぐためのワクチンの接種や伝染病対策の啓発のための講演活動など、仕事は多岐にわたる。

検査・指導などを通して畜産を守る家畜保健衛生所



なくてはならない公務員獣医師 県民の生活や畜産業の振興において

7「福島県中央家畜保健衛生所」の検査室。設備の整った検査室で、家畜の様々な病気の検査を行っている 8木をふんだんに使った新庁舎で職場環境も快適 9真摯に仕事を邁進する神川さん(右) 10鳥インフルエンザの検査のために鶏から採血をする



10

の動画撮影も大切な業務のひとつ。なかなか飼い主が見つからない高齢犬の動画を複数本作成し、YouTubeにアップロー

ドする努力を続けた結果、収容から5ヶ月以上たった後に新しい飼い主さんが見つかった時は感慨深いものがあったという。

現在は妻子とともに、三春町に在住。「福島県はフルーツやラーメンなど、おいしいものがたくさんあります。キャンプ場やスキー場も多く、家族で休日を楽しんでいます」と仕事もプライベートも充実している。



10